（別紙２－４）

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　　総括表

法人名	医療法人社団　松涛会	代表者	斎藤　妙子
事業所名	小規模多機能 ケアタウン江の浦	管理者	中島　一圭

法人・事業所の特徴	家庭的な環境を作り、安心、安全な日常生活を送れるよう支援している。行事、外出支援も充実している（本年度は、外出はほとんど出来ませんでしたが）。敷地内には、内科があり、往診や緊急時の受診で適切な医療が受けられ、安心した生活を送る事が出

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	総括を行う運営推進会議の回は、コロナウイルスの影響で未開催									

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	昨年度の改善計画が達成出来なかったので、今回も同様な計画とする。情報の集約・共有を行い、各利用者に適した介護を行うようにしていく。	情報の集約、伝達、共有の難しさは相変わらずである。改善出来たといえる状況ではない。年々、少しづつでも、レベルを上げていくしかない。	今回の意見収集は、シートを配布し、記入後回収という形で行った。こちらも現状の説明等は、出来なかった。「わからない」との回答が半数を占めた。	利用者の情報収集の方法を見直す。個々の職員が集めた情報が有意義に利用出来るようにしていく。伝達方法に関しても、より良い方法を探していく。
B．事業所のしつらえ・環境	施設内の季節感を出す飾りつけのレベルは年々向上しているので、このまま更なるレベルアップしていく。	今年度も、季節、行事ごとの飾り付けはうまく出来ていた。今年のように、外出が出来なかった年でも、季節の移り変わりを感じてもらえた事が良かった。	運営推進会議（一度だけであったが）の際に、写真で一年間の流れを確認してもらったので、概ね高評価を得られた。	季節ごとの飾りつけは上手に出来ているのでレベルを落とさないようにする。感染対策として、清潔を保つようにしていく。
C．事業所と地域のかかわり	夏祭り等の行事を行う際に、町内の回覧板に記載させてもらい、認知度を高めて、参加も促していく。	今年は、コロナウイルスの事があるので、地域、外部との関わりなどの項目は、評価は出来る状況ではなかった。	地域イベント自体が、ほとんど行われなかったし、事業所のイベントも内部だけで行った。それでも一度だけだが、川の清掃に参加した事は、感謝された。	状況が良くなれば、地域との交流は積極的に進める。前回の改善計画と同様の事を実行し、事業所行事への、地域の方の参加を促す。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者の方の歩行能力の低下が進んできている。こちら出ていくのも大事であるが、現状を考えると、事業所に来てもらう形の交流も一つの手段である。	C.の項目と同じで、今年に関しては、地域との関わりを持つことは難しい状況であった。	この項目の評価は「わからない」がほとんどであった。実際に、利用者の方が、地域と交流した機会はなかった。	上記の項目と同様で、前回の改善計画を、状況が許せば、実行していく。
E．運営推進会議を活かした取組み	情報の交換は、事業所にとって有意義なものである。今まで以上に、情報の活用を行っていく。	運営推進会議も、年間通して一度しか開催出来ず、活用出来たとは言えない状況であった。	10月末の一度しか会議は開催出来ていない。その際に、地域のイベント情報も頂いたが、実際は中止となり、活用出来ず。	会議を開催できる状況なら、情報交換をしっかりと行い、地域との繋がりを保っていく。
F．事業所の防災・災害対策	年に２回の避難訓練に、如何に地域の方の参加を促せるかを考え、実行していく。	避難訓練は予定通りに行った。地域どころか消防署との連携も難しかった。その代わり、拠点内の連携に関しては、しっかりと確認出来た。	避難訓練の様子は、写真を見てもらいながら説明を行った。実施している事を確認してもらっただけであった。	これも前回の改善計画が可能な状況になれば、地域の方にも避難訓練に参加してもらい、本当の災害時に連携出来るようにしていく。